

令和6年度 豊田市環境審議会 第1回専門部会（自然共生社会） 会議録

【日時】 令和6年7月8日（月）午後2時から4時

【場所】 豊田市役所 環境センター3階 環境部会議室

【出席者（部会長以下五十音順）】

部会長 増田 理子 （名古屋工業大学 社会工学専攻 教授）

篠田 陽作 （ネイチャークラブ東海 代表）

渡部 教行 （豊田市自然愛護協会 会長）

大坪 瑞樹 （豊田市自然観察の森 所長）

（事務局）環境政策課 塩谷課長、浦野副課長、弘中担当長 ほか

【欠席者】 なし

【傍聴人】 なし

【次第】 1 部会長挨拶

2 議題

（1）環境基本計画の自然共生社会における前年度取組について（協議）

（2）環境基本計画の自然共生社会における全体の評価について（協議）

（3）環境基本計画の改定について（協議）

1 部会長挨拶

2 議題

(1) 環境基本計画の自然共生社会における前年度取組について（協議）

部会長	事務局から議題について説明をお願いします。
事務局	（配布資料「資料 1～3」について説明）
部会長	事務局説明及び評価について意見等あるか。
委員	様々な施策で「遅れ」と評価している点について、次期計画で今後の目標をどのように設定していくのか検討が必要である。
委員	施策 2.4②「市街地の緑地創出」は 2020～2023 年まですべて「遅れ」の評価になっているが、これをどのように捉えていくのか。
事務局	市街地の緑化は、民間の事業件数により左右されるため「遅れ」という評価になりやすくなっており、次期計画に向けてどのように考えるか検討していく。
委員	市街地の緑化に関する計画があればその内容に沿った目標設定をするとよいのではないか。
事務局	現在都市計画部局で緑の基本計画の見直しを行っている状況で、今後、豊田市の緑の整備の方針が出てくると思う。また、本施策を環境基本計画で取り扱っていくべきなのかという視点でもご意見をいただきたい。
委員	豊田の西部地区では、市街化を進める中で、森林だった場所に太陽光パネルが設置されるなど自然が失われている。市街地の周辺でどのように緑地を残していくか考えていけるとよい。
委員	名古屋市では住宅地を緑地に戻すような取組も行っているが、条例等を整備して決めない限り、市街地の緑地は減ることはあっても増えることはないと思われる。
委員	市街地の緑地の計画をしっかりと立てて、緑地を創出したり、既存の緑地を残したりしていけるとよい。
委員	積極的に緑化を進めるためには、抜本的な都市計画の変更がなければ難しい。
委員	緑の量を増やすことは難しいと思うが、街路樹などで計画的に既存の緑地をネットワーク化するなどして、質を高める取組も大切だと思う。
委員	身近に自然が整備された都市環境を望む人を増やしていくことが大切だと思う。
委員	都市の中に緑地を作ると落葉などの苦情が増えるが、環境学習を充実させて、そのような状況を変えていく必要がある。
委員	施策 2.2③「市民参加型調査の推進」はコロナの影響を受けていたと思うが、PR をしてもリアクションが薄いようであれば、展開の仕方を変更するなど検討が必要ではないか。
事務局	コロナの影響等も考えられるほか、同様の取組を国や県でも実施しているため、今後の進め方を検討していきたい。
委員	調査結果を数字として公表するだけでなく、活動の成果としてわかったことが PR されると興味を持つ人が増えると思われる。

(2) 環境基本計画の自然共生社会における全体の評価について（協議）

部会長	事務局から議題について説明をお願いする。
事務局	（配布資料「資料4」について説明）
部会長	意見や質問はあるか。
委員	まちの状態指標の「生物多様性を保全する活動・イベントに参加したことがある市民の割合」が10.2%は低すぎる。最低でも50%程度になってほしい。これは市が魅力あるイベントの企画ができていないということではないか。
事務局	興味がない方にいかに参加してもらうかが課題になってくると思う。昨年度、そのような視点を含めて豊田市自然観察の森の指定管理者の選定を行っており、今後、より魅力ある企画を検討していく。
委員	暑い時期のイベントについては、近年は熱中症も心配されるため、暑い時間帯を外して開催するなどの工夫も必要だと思う。
事務局	「生物多様性を保全する活動・イベントに参加したことがある」という表現が難しいのではないかとと思われるが、アンケートの内容についてもご意見をいただきたい。
委員	設問のハードルが高いかもしれない。ハードルが低いものから高いものまで、さまざまな質問項目があるとよい。
委員	地域によっては、草刈りの際に自然環境に配慮した取組が行われていることもあり、地域の環境美化活動に参加することも、生物多様性の保全につながる部分がある。
事務局	特定外来生物のオオキンケイギクの防除活動は、環境美化に合わせて多くの地域で取り組まれているが、そういった活動を拾い切れていない可能性はある。
委員	生物多様性という言葉自体に敷居が高いと感じる人が多いのではないか。

(3) 環境基本計画の改定について（協議）

部会長	事務局から議題について説明をお願いする。
事務局	（配布資料「資料5」について説明）
部会長	事務局説明について意見等あるか。
委員	子どもへのアンケートは良いと思う。小中学生へのアンケートは回答させることが難しいと思うが、どのように実施するか。
事務局	いくつかの学校に依頼し、クラス単位で回答してもらう想定である。小学生については、地域の環境について学習する4年生を対象として実施を検討している。
委員	市民アンケートの2番について、環境保全の取組状況でエコバックの記載はあるが、マイボトルやマイハシといった取組は含まれていない。アンケートを通して、市民に自分が取り組んでいることが環境保全活動だと認識してもらうよい機会にもなると思うので、細かく事例を出すとよいと思う。事業者アンケートも同様で、企業の行っている様々な取組を拾い上げることができるよう、事例を出してもらいたい。加えて、11番の生物多様性についても、かみ砕いて説明をしないとわかりやすくなると思う。
部会長	本日の協議は以上とする。